

ルカ 24 章 35-49 節 「生々しい復活」

キリストは復活されました。肉体をもって復活されました。それは生々しい出来事でした。復活は、キリストは亡くなれたけれど、心の中にいつまでも生きておられる、ということではありません。十字架にかかる前と同様に、肉体をもって復活をされました。そしてその姿は光り輝くものではなく、その体にはたしかに、十字架にかかったときの釘の跡、槍で突かれた傷の跡が、生々しく残っていました。状況を把握できていない弟子たちに、主イエスが真ん中に立たれて示してくださったのが今日の個所です。復活のキリストは弟子たちの真ん中に立たれた。これは今私たちが守っている礼拝の姿でもあります。復活のキリストが今も私たちの真ん中に立っておられる。これが週の初めの日の出来事です。

主イエスは話をしている弟子たちの真ん中に「いきなり」立たれました。そして「こんにちは」とあいさつをなさっていますが、弟子たちは当然驚きます。「彼らはおそれおののき、亡霊を見ているのだと思った」とあります。当然でしょう。たしかに主イエスが息を引き取られたのを弟子たちは知っています。しかし、突然、皆の前に現れられた。どうにも理解しがたい形で、復活の主イエスは現れられました。むしろ霊的な存在として現れられたのであれば、まだ私たちも納得できるでしょう。しかし主イエスは自分は亡霊ではないとおっしゃるのです。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい」とおっしゃるのです。亡霊ではなく、触ることのできる肉体という実体を伴った存在なのだと言います。さらには焼き魚を食べるというパフォーマンスまでなさいます。ここは弟子たちのみならず、多くの人々が戸惑うところです。

主イエスが復活された確実な証拠。それがあれば、話が早い。しかし今の私たちは、目で見ることではできません。キリストがよみがえられたという証言が聖書にあるだけです。キリストがよみがえられた、ただそれだけが唯一の証拠になります。私たちの信仰のすべての土台は、主イエスの復活になります。主イエスは肉体をもって復活されました。肉体の復活です。主イエスが肉体を持ってよみがえったゆえに、教会は最初からそのことを宣べ伝えてきたのです。この福音書を書いたルカが、今日、私たちに与えられた箇所では一生懸命に書いていることは、たった一つ。主イエスが肉体を持って、本当によみがえられたということです。霊的なオバケではなくて、体をもって復活した主なる神の主張であります。その主の主張を証拠づけるように、魚を食べられたのです。肉体があるからこそ、食べ物を食べることができます。亡霊や幽霊ならば、そんなはずはありません。本当に主イエスが肉体を持って復活されたのだ、ルカは一生懸命、そう書くのです。

復活の主を本当は信じたいけど、自分が自分を裏切って、自分で自分の平安を守ろうとする自分中心の信仰が、神様を信じる信仰を裏切り、うろたえ取り乱していたのです。だからこそ、その弟子たちに主イエス・キリストは、私たちの救い主として出会って下さいませ。人間は間違いだらけで、欠けの多い器です。目の前に復活の主がいても、すぐに信じられない心の弱い私たちがいる。間違っただけの心の弱い私たちがだからこそ、神はキリストを主としてくださったのです。主が私たちの主として生きられ、身代りに死なれたから、そのイエス・キリストを主なる神は復活させられ、罪人をそのままに赦して救った。その愛と恵みの正しさによって主なる神は、罪人を復活させて救う救いを、イエス・キリストによってご用意なされた。だから私たちは、キリストを主としてくださった神に、主よ感謝しますと、受け入れることを求められているのです。その信仰を主なる神は心から喜んでくださるのです。